

【検討課題 1：ごみ量予測について】

1 ごみ量予測手法の課題の検討

- ① 家庭ごみについては、人口予測、家庭ごみ発生原単位、資源回収量等を見直す。
- ② 事業系ごみについては、実質都内総支出の対前年度増加率（都内経済成長率）を見直す。
- ③ 区の一般廃棄物処理基本計画の計画期間、ごみ量予測手法、予測ごみ量を調査・整理する。

2 最終処分量の予測

- ① サーマルリサイクルによる不燃ごみの減少と、不燃・粗大ごみ処理施設からの搬出ごみの焼却処理の可能性を反映したものとする。
- ② 灰の発生量及びスラグの生成量を予測するとともに、スラグの有効利用のあり方を踏まえたものとする。

【検討課題 2：施設整備計画について】

I 清掃工場

1 焼却余力の考え方の整理

計画稼働日数の考え方と月変動係数の考え方について整理する。

2 焼却能力の検証・見直し

清掃工場ごとにサーマルリサイクルによる焼却能力への影響を調査・検証し、適切な焼却能力を設定する。

3 施設整備手法の検討（プラント更新と建替えについて）

個々の清掃工場の立地条件、老朽化の程度等を考慮し、適切な施設整備手法の考え方を整理する。

4 建設工期の検討

建築基準法の改正に伴う影響を把握し、標準工期の検討を行う。また、工期延長となる場合、清掃工場の耐用年数の考え方についても整理する。

II 灰溶融施設

1 灰溶融施設の整備

- ① 計画稼働日数、各工場の灰発生量、灰の季節変動率を見直すとともに、施設の安定稼働に向けた検討を行う。
- ② 灰溶融処理に係るコスト分析やスラグの有効利用量の予測を行い、灰溶融のあり方について検討する。

2 スラグ生成量の予測とスラグ貯留施設の整備

上記を踏まえ、今後のスラグ生成量を予測するとともに、スラグ貯留施設の適切な規模等について検討する。

III 不燃ごみ処理施設・粗大ごみ処理施設

1 不燃ごみ・粗大ごみの中間処理のあり方

サーマルリサイクルによる不燃ごみ量の減少とごみ質の変化を把握し、不燃ごみと粗大ごみの中間処理のあり方を見直す。

2 不燃ごみ・粗大ごみ等の処理施設配置のあり方

中防処理施設を巡る状況の変化及び今後の不燃ごみと粗大ごみの中間処理のあり方を踏まえ、将来の処理施設の配置を検討する。